

病理診断科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

病理診断を行う部門です。

病理診断とは、患者さんから採取された組織や細胞を、主に顕微鏡を用いて行う診断業務です。多くの疾患において、病理診断は最終診断となりますが、特に癌などの腫瘍性疾患においては重要な役割を果たしています。当科には、病理医と臨床検査技師が所属しており、病理診断業務として、組織診断、術中組織診断、細胞診断、術中細胞診断、病理解剖を行っています。

研修医の先生が希望する臓器についての病理診断の研修を行います。約一カ月程度の研修によって、簡単な症例であれば、生検や手術材料、術中迅速の病理診断ができるようになります。

機会があれば、スタッフとともに病理解剖を行います。

また、私どもの基本方針である「顕微鏡の向こうに患者さんを意識して、病理診断を行う。」ことを十分に経験できると思います。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性 個人情報情報を秘匿できる。

B-2医学知識と問題対応能力 病理診断に必要な知識を得ることができる。

B-3診療技能と患者ケア 患者さんの立場に立った病理診断ができる。

B-4コミュニケーション能力 病理診断結果について、臨床医と議論できる。

B-5チーム医療の実践 病理医としてチーム医療に参画できる。

B-6医療の質と安全の管理 病理診断について、指導医と議論できる。

B-7社会における医療の実践 病理診断について、患者さんに説明できる知識を得る。

B-8科学的探究 臨床医の学会発表に協力できる。

B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢 最新の病理学的知見を検索できる。

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
時間					
8:30-12:00	切り出し 診断チェック	切り出し 診断チェック	切り出し 診断チェック	切り出し 診断チェック	切り出し 診断チェック
13:00-17:00	診断	診断 カンファレンス	診断 カンファレンス	診断	診断

病棟業務
なし。

手術
なし。

カンファレンス

呼吸器カンファレンス
乳腺カンファレンス
泌尿器科カンファレンス
産婦人科カンファレンス
がんサード
臨床病理カンファレンス

その他 緊急時対応・学術活動等

病理解剖

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中0症候)		
1	ショック	
2	体重減少・るい瘦	
3	発疹	
4	黄疸	
5	発熱	
6	もの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	
18	腹痛	
19	便秘異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中0疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送						
皮膚消毒						
外用薬の貼布・塗布						
気道内吸引・ネブライザー						
静脈採血						
胃管の挿入と抜去						
尿道カテーテルの挿入と抜去						
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)						
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)						
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療						
①気道確保						
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)						
③胸骨圧迫						
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)						
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)						
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法						
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理						
⑬局所麻酔法						
⑭創部消毒とガーゼ交換						
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
検査手技の経験						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)						
心電図の記録						
超音波検査						
評価(Ev)						

研修医評価票を用いて、下記のとおりに評価する。

A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。

B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。

C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。